

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	キャラクタービジネス論						
担当教員	辻 幸恵					科目ナンバ-	A72070
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなビジネスをキャラクターグッズを通じて知り、マーケティングの重要性を学び生活の中で考察する力を養う。						
授業の概要	グローバル化が進む社会でキャラクター（マスコット）は多様なビジネスの要素を含んでいる。たとえばゆるキャラは地域に、スポーツマスコットは世界に、貢献しアピールしながらビジネスモデルをもっている。それらを学びよりビジネスを身近に感じてもらうことを目指し、キャラクターを使う意味について学ぶ。						
到達目標	<p>1. ビジネスの基本的な広告を知り、造形的なキャラクターを通じて広告とアートの融合的販売戦略を構築できる。そして現代におけるキャラクター（文芸的）所産に美的価値だけではなく、心理的販売促進的価値を理解することができる。【知識・理解】</p> <p>2. キャラクタービジネスを通じてマーケティングの要素を習い、それらの社会的意味を説明でき、また自ら企画できるようになる。【汎用的技能】</p> <p>3. キャラクタービジネスの特性を理解し、他のビジネスへの応用できる洞察力とキャラクターとビジネスを融合的に理解し、生活内に応用できる態度を育て社会に貢献する方策を考察できるようになる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 キャラクタービジネスとは何かを考える視点を養うために：ビジネスにおいて、どのようなキャラクターが使用されているのかを知る。（教科書は第1章pp. 2-11）</p> <p>第2回 キャラクターの定義と日本産キャラクターの魅力について：日本産のキャラクターを例示し、キャラクターの系譜の分類と日本産のキャラクターの特徴（ゆるキャラを例示）について知る（教科書pp. 12-43）</p> <p>第3回 キャラクターの分類と多様性：キャラクターの分類ごとのメディア性やシンボルの意味について論じる。（教科書pp. 44-59）</p> <p>第4回 企業キャラクターの事例（不二家のペコちゃん）：ペコちゃんを用いた世論形成を時系列的に当時の事件の新聞記事を参考にしながら理解し、それらの事象を論じる。（教科書第2章pp. 62-82）</p> <p>第5回 キャラクターとマーケティングとの関係：ひきつづきペコちゃんの事例を参考にして、不二家の菓子メーカーとしてのマーケティングを学ぶ。（pp. 63-101）</p> <p>第6回 消費者視点へのアピールとキャラクターマーケティング：キャラクターを使用した売り方の工夫を理解し、論理的にそれらを応用できる基礎知識を学ぶ（教科書第3章pp. 104-121）</p> <p>第7回 消費者心理とキャラクターの特性：G・ジンメルの理論をもとに、現在のキャラクターの伝播について学び、消費者の心理の基礎を理解する。（pp. 122-133）</p> <p>第8回 ビジネス活用とキャラクターの魅力：キャラクターに対する好悪を知ることによって、ビジネスの対象者（ターゲット）を選定する方法を学ぶ（教科書第4章pp. 136-160）</p> <p>第9回 キャラクター商品への理解：大学生が好むキャラクターとグッズ使用のTPOについて学ぶ。（pp. 167-182）</p> <p>第10回 キャラクタービジネスのメリットとデメリット：ここまででマーケットから見たキャラクターの利点と不利な点を中心にこれまでの学習の中間的なまとめをおこなう。</p> <p>第11回 企業キャラクターの本質と法律：キャラクターグッズなどの法律関係を理解する。（教科書第5章pp. 183-195）</p> <p>第12回 キャラクターの商標権：商標権の目的、条件などを具体例をあげながら理解する。（pp. 196-200）</p> <p>第13回 キャラクタービジネスに関する法律：著作権、商標法、意匠法などキャラクタービジネスに必要な法律を中心に具体的な例（ウルトラマン、サザエさん）をあげて説明する。（教科書第6章pp. 212-233）</p> <p>第14回 キャラクターに関する諸問題について：漫画やアニメのキャラクターを利用した場合の現実的な問題点を学ぶ。（pp. 234-253）</p> <p>第15回 キャラクターのライセンスと授業内容のまとめ：ライセンスの話にふれた後・総復習と確認問題を出して理解度を検証する（第7章pp. 256-295）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（詳細は授業内で指示：主に次回の授業で学ぶ教科書を読んでおくことと、キャラクターに関連するニュースを見ておくこと）（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理をする。具体的には教科書にそって授業をしているので毎回の授業での復習をしておくこと。（学習時間2時間分）</p>						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて講義をおこなう。各回の授業内で確認問題も解く）						
評価基準と評価方法	<p>評価基準と評価方法</p> <p>平常点40%：各回の授業内で毎回3問ずつ問題を出すのでその解答を提出。（到達目標1の到達度の確認）正しい解答は問題を出した次週に解答を示す。</p> <p>レポート20%：9回目に課題を提示する。10回目に提出。（到達目標2の到達度の確認）</p> <p>15回目の確認問題40%：授業で学習したキャラクタービジネスについての確認。（到達目標3の到達度の確認）</p> <p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>毎回の授業のはじめに前回の問題の解答を解説する。</p>						

履修上の注意	1. 毎回の授業内で実施する問題に対する解答はその授業内に提出すること。 2. 遅刻・早退は認めない
教科書	『キャラクター総論』、辻幸恵・梅村修・水野浩児著、白桃書房、2009年、ISBN 978-4-561-26509-2
参考書	『売れるキャラクター戦略』、いとうとしこ著、光文社新書、2016年、ISBN 978-4-334-03960-8

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広報広告と社会						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	A32070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・広報（PR）活動の理解						
授業の概要	<p>広告・広報（PR）活動についての基本的な知識を習得することを目指す。私たちはふつう広告や広報を受け取る側において、それらがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどない。しかし、広告や広報が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかけている。この講義では、広告の分類や広告に関わる組織、広告表現、広告関連の法規や規制、広報の多様性など、広告・広報活動を理解するために必要な基礎的な知識を学ぶ。実際にテレビCMやネット広告、クリエイターの仕事、広報活動などを見ながら解説していく。</p>						
到達目標	<p>（1）広告や広報の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告・広報を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができる。【知識・理解】</p> <p>（2）実際の広告物を専門用語を使って分析できる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨン</li> <li>2 広告とは何か</li> <li>3 マーケティングと広告</li> <li>4 広告主と広告会社</li> <li>5 広告費</li> <li>6 広告表現①：比較広告</li> <li>7 広告表現②：アートディレクターの仕事</li> <li>8 広告表現③：映画の予告</li> <li>9 広告媒体</li> <li>10 広告関連の法規と規制</li> <li>11 インターネット広告</li> <li>12 広報（PR）の基本</li> <li>13 地域社会と広報</li> <li>14 広告を楽しむ：広告鑑賞</li> <li>15 授業のまとめと小テスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： 各回授業で扱うテーマに関する広告を下調べする。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	講義形式。簡単なグループワークをする機会を設ける。						
評価基準と評価方法	<p>期末課題（レポート＋小テスト） 70%： 授業で学習した概念を理解し、それを踏まえたレポートが作成できているか評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）の到達度の確認。 なお、第14回にレポート検討会を実施し、レポート内容に対する評価をフィードバックする。</p>						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書	<p>岸志津江・田中洋・嶋村和恵、『現代広告論 [新版]』、有斐閣、2008年</p> <p>日本パブリックリレーションズ協会編、『改訂版 広報・PR概論』、同友館、2012年</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	文芸作品の分析と研究						
授業の概要	各自の関心に応じて、文芸作品（メディア、サブカルチャー、文学、映画、演劇など）を取り上げ、自分の考えを論理的な文章にまとめる練習を行う。						
到達目標	【知識・理解】文芸作品を解釈し、分析することができる。 【態度・志向性】先行研究を踏まえながら、作品を文化史的・歴史的な観点から、自らの力で位置づけることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業計画の説明、卒論の書き方の指導</li> <li>2. 先行研究の探し方、発表の順番の決定</li> <li>3. 「はじめに」とテーマの説明 (1)</li> <li>5. 同 (2)</li> <li>6. 同 (3)</li> <li>7. 同 (4)</li> <li>8. 「第1章 具体例の紹介」の発表 (1)</li> <li>9. " (2)</li> <li>10. " (3)</li> <li>11. " (4)</li> <li>12. 「第2章 定説と先行研究の紹介」 (1)</li> <li>13. " (2)</li> <li>14. " (3)</li> <li>15. 前期のまとめ</li> </ol> <p style="text-align: center;">夏休みの課題： テーマに関連した文献を読む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 夏休みの課題報告 (1)</li> <li>17. " (2)</li> <li>18. 「第3章 定説に対する反論」の発表発表 (1)</li> <li>19. " (2)</li> <li>20. " (3)</li> <li>21. " (4)</li> <li>22. 「第4章 本論の発表」 (1)</li> <li>21. " (2)</li> <li>22. " (3)</li> <li>23. " (4)</li> <li>24. 「第5章 結論」の発表 (1)</li> <li>25. " (2)</li> <li>26. " (3)</li> <li>27. " (4)</li> <li>28. レジメの指導</li> <li>29. 口頭試問 1</li> <li>30. 口頭試問 2</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テーマに関連した作品と批評、研究論文を読む。（30時間以上）						
授業方法	演習：以下の手順で進められる。 担当者の発表→教員による質問→受講生との質疑応答						
評価基準と評価方法	発表（25%）、平常点（25%）、卒業論文の内容（50%） 質問、内容評価は授業の前後、オフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	資料の収集、先行文献の研究など、資料調査怠らないこと。						

教科書	なし
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	ファンタジーの世界						
担当教員	釣 馨					科目ナンバ-	A72090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファンタジーの起源と構造、およびファンタジーの現代性について理解する						
授業の概要	ファンタジーは、神話や伝承から得た着想をテーマに掲げ、魔法などの空想的な要素が一貫性のある設定として導入されている。一方でファンタジーは架空の世界にもかかわらず、その世界には作品が書かれた地域やその時代の文化や思想が背景にある。それらを3大ファンタジー（『指輪物語』『ナルニア国物語』『ゲド戦記』）と現代の新しいファンタジーの中に読み取りつつ、比較、整理する。						
到達目標	近現代の小説、詩歌、演劇、映画、サブカルチャー、ジャーナリズム、広告などの諸相において、その文化的意味、現代的意義を享受し、理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ファンタジーとは何か 定義・歴史・構造 第2回 『指輪物語』(1) 映画版の鑑賞 作品の概要 第3回 『指輪物語』(2) 物語の構成と素材について 第4回 『ナルニア国物語』の特徴 第5回 『ゲド戦記』(1) 映画版の鑑賞 作品の概要 第6回 『ゲド戦記』(2) 物語の構成と映画版との違い 第7回 「ハリー・ポッター」シリーズ(1) 「秘密の部屋」の鑑賞と作品全体の概要 第8回 「ハリー・ポッター」シリーズ(2) 作品が反映する現代社会の問題 第9回 「ハリー・ポッター」シリーズ(3) ウォルデモートに見られる悪と血統の問題 第10回 『千と千尋の神隠し』(1) 作品の鑑賞 物語の概要 第11回 『千と千尋の神隠し』(2) 善と悪の問題とイニシエーション 第12回 『千と千尋の神隠し』(3) 女性と労働 第13回 『アナと雪の女王』(1) 「アナ雪」の新しさ 第14回 『アナと雪の女王』(2) ポストフェミニズム 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で映画になったファンタジー作品を部分的に鑑賞するが、全体を通して見る時間がないので、授業の前に各自で作品を見ておくこと（学習時間2時間）。また毎回授業のまとめと意見を書くプリントに、自分で見たり読んだりした作品の小レポートを書く欄を設けるので、自分で興味を持った作品を選び、書き込んでおくこと（学習時間2時間）。						
授業方法	講義。毎回、取り上げる作品のワンシーンを見ながら、また配布したプリントに重要なポイントを書き込んでもらいながら解説していきます。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物50%：各回の授業の最後にリアクションペーパーとして授業内容の簡単なまとめと自分なりの解釈を書いてもらい、評価します。それによって到達目標に関する到達度を確認します。筆記試験50%：授業で扱ったファンタジー論に対する理解度、それを自分の言葉で表現する力を評価します。それによって到達目標に関する到達度を確認します。						
履修上の注意	出席を重視します。						
教科書	教科書は使用せず、随時プリントを配布します。						
参考書	小谷真理『ファンタジーの冒険』、脇明子『魔法ファンタジーの世界』、アーシュラ・K・ル＝グウィン『夜の言葉 ファンタジー・SF論』、島田裕己『ハリー・ポッター 現代の聖書』、河野真太郎『戦う姫、働く少女』						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディアと現代文化						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	A12060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映像メディアを分析する視座を学ぶ						
授業の概要	本講義では、映画の鑑賞を通して、映像メディアをより豊かに理解し分析するためのいくつかの視座を学びます。授業では、テーマごとに、まず分析手法を解説したうえで、映画を鑑賞します。鑑賞後、小レポートに取り組んでもらい、さらに教員による解説を行います。これらを通して、映像メディアを分析するためのいくつかの手法を理解し、さまざまな読みの可能性があることを学びます。こうした分析手法は、映画だけでなく、文学やアニメ、マンガなど広く文芸作品全般に応用できることを理解してもらいたいと思います。						
到達目標	(1) 映像メディア(映画)を分析するための視座を習得することができる。【知識・理解】 (2) 映画を批評し、内容について他者と討論する力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 批評とは：映像メディアに対するアプローチ 3 映画の産業構造・小レポート [PC必携] 4 物語の構造(1)：構造分析についての解説 5 物語の構造(2)：『千と千尋の神隠し』解説 6 社会問題(1)：社会的分析についての解説 7 社会問題(2)：『ズートピア』鑑賞・小レポート [PC必携] 8 社会問題(3)：『ズートピア』解説 9 コミュニケーション(1)：表象分析についての解説 10 コミュニケーション(2)：『聲の形』鑑賞・小レポート [PC必携] 11 コミュニケーション(3)：『聲の形』解説 12 メディア(1)：メディア論についての解説 13 メディア(2)：『トウルーマン・ショー』鑑賞・小レポート [PC必携] 14 メディア(3)：『トウルーマン・ショー』解説 15 まとめ  ※鑑賞する作品は変更する可能性がある。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習： 映画や分析手法について確認・整理する。(学習時間：2時間) 授業後学習： 小レポートを作成する。(学習時間：2時間)						
授業方法	〈BYOD対象科目〉 講義形式。作品鑑賞の後、小レポートの作成およびグループディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	小レポート 60% (15%×4回)： 作品内容の理解度、および、小レポートの内容・記述的確さ、を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。 授業態度 40%： ディスカッションにおける議論的確性を評価する。到達目標(2)の到達度の確認。						
履修上の注意	鑑賞後のディスカッションに積極的に参加することが求められる。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディアとジャーナリズム						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	A43020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代メディア産業とジャーナリズム						
授業の概要	インターネットの登場によってメディア環境が大きく変化している現在、メディア産業やジャーナリズムのあり方も大きな影響を受けている。この授業では、産業としてのメディアや報道のあり方についての基本的な知識を学ぶ。とりわけ、新聞・出版・テレビ・インターネットの各メディアをとりあげ、インターネット時代におけるメディア産業のあり方や問題を考える。また、ニュースを読み解くための重要なキーワードを理解しながら、時事的な問題についての知識も身につける。						
到達目標	(1) メディア産業やジャーナリズムについての基本的な知識を得ることができる。【知識・理解】 (2) 身近なニュースから現在の報道やメディアのあり方について考え、議論する力を身につけることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 ジャーナリズムとは何か 3 メディアのいま(1): 新聞社 4 メディアのいま(1): ネット時代のニュース 5 キーワードから読み解くニュース(1): 報道の自由 6 メディアのいま(2): 出版社 7 メディアのいま(2): ネット時代の出版 8 キーワードから読み解くニュース(2): 報道被害 9 メディアのいま(3): 放送局 10 メディアのいま(3): ネットとテレビ 11 キーワードから読み解くニュース(3): 炎上 12 メディアのいま(4): インターネット 13 メディアのいま(4): フェイクニュース 14 キーワードから読み解くニュース(4): ソーシャルメディア有害論 15 授業のまとめと小テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 各回授業で扱うテーマに関するニュースや新聞記事を下調べする。(学習時間: 2時間) 授業後学習: 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。(学習時間: 2時間)						
授業方法	講義形式。一部、簡単なグループワークをする機会を設ける。						
評価基準と評価方法	期末課題(レポート+小テスト) 70%: 授業で学習した内容を踏まえたレポートが作成できているか評価する。到達目標(1)および(2)の到達度の確認。 授業態度 30%: 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標(1)の到達度の確認。						
履修上の注意	マスコミ関係に就職を希望する者は受講することが望ましい。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書	田村紀雄・林利隆・大井真二編、『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』、世界思想社、2004年						